

# 露払いの両鬼が厄を払う

10月14日-15日

## 飯土井神社神幸祭



【厄払い】赤鬼・青鬼が竹棒で厄を払う。幼子を泣かせようとするのは健やかな成長を願ってのこと。

### 先

頭は鬼がゆく。赤鬼・青鬼が神輿と行列の露払いをする。手には竹の棒、当然怖い顔をしている。なのに飯土井の鬼はすこく人気がある。赤ちゃんを抱いた親が次々と鬼に近寄ってくる。鬼を見たり、鬼から抱かれたときに泣く子は強くなる。鬼が竹の棒を子どもの頭にコツンと軽く合わせる。こうして一人ひとりの厄を払っていく。

飯土井神社神幸祭の山笠運行は、神崎二の山笠愛好会（毎年運行）を除いて二年に一度。待ちに待って迎えた10月14日の初日、山笠4基が飯土井神社の境内に近づいてきた。皆、意を決した表情だ。神事を始めるには、越えなければならぬ一つの難関が待ちかまえている。神社まで続く急坂。数トンある山笠を一心に押す。ひたすら押す。このときばかりは地区も法被も関係なく加勢する。境内にたどり着いた表情は、まるで登頂したときのように、すがすがしい。やがて鬼が先頭に立ち、神輿が御旅所まで移る「お下り」が厳粛な雰囲気の中、行われた。



【神崎一】揺き棒のつなぎや法被、山笠の随所に見られる緑が周囲の木々と映える。



【神崎四】破風から突き出た無数のボンカンを秋風に揺れ、豊作の稲穂を思わせる。



## 掛け声合わせ一心に



【神崎二】折りたたみ式の破風を備えた神崎二。例年、町内屈指のスケールを誇る。



【神崎三】競演会に参加しなかった分、並々ならぬ意気込みで神幸祭に臨んだ神崎三。